ファースト ラン！
KSKQ FIRST RUN!
－多くの仲間とともに現在を変え未来を創造するために－

NO.104
2017.12

「楽しい音楽祭 」 大谷（おおたに） 絵美（えみ）さん

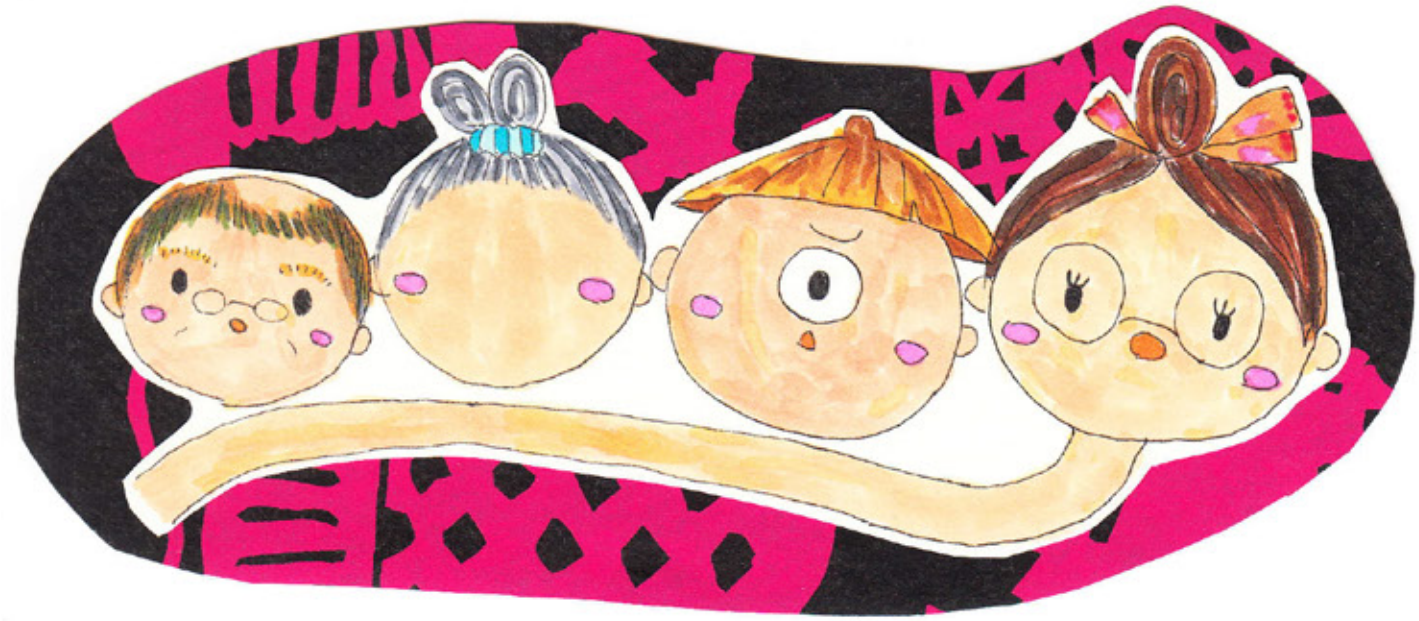
特集

知っていますか？

「劇団でこじるしー」！！！

研修報告 / 追悼　河野秀忠（かわのひでただ）さん

編集：特定非営利活動法人　箕面市障害者の生活と労働推進協議会
http://www.suisinkyo.com/



■ CONTENTS ■

4 知っていますか？

『劇団でこじるしー』！！！

10　研修報告

「成人発達障がい者への医療介入と社会参加について考える」

13　追悼　河野秀忠さん

17　カエルのうた

18　パンのみみ

ファーストラン！電子版もあります

当法人公式 Web サイト内のページにアクセスしてください。フルカラー PDF 形式でご覧いただけます。ルビなし版も。

http://www.suisinkyo.com/first-run

劇団でこじるしー
HEY YO
Yokaiに
ようかい?
2017.10.9

さる10月9日体育の日、メイプルホールの小ホールは100名を超える観客に埋め尽くされました。その日は劇団でこじるしー第7回公演「HEY　YO　Yokaiにようかい？」の上演日。立ち見客も出るほどの盛況のなか、舞台上で堂々とした演技を披露したのは年齢も障害もバラバラな、しかし「全員で一つの舞台をつくる」という確かな一体感を持つ、とても個性的なメンバーでした。

劇団でこじるしーとは？

劇団でこじるしーとは、当法人の事業所である地域交流センターさんかくひろば発の劇団で、2013年9月に旗揚げしました。コンセプトは、「障害のある人もない人も集まってひとつの演劇作品を作ろう」というものです。
これまでに7回の本公演を行ったほか、ライフプラザ夏祭りや唐池祭りにも招待され、短編公演を行いました。第5回公演からは、「輝け！子どもパフォーマー事業」として認定を受け、大阪府より助成金を受けています。

左上『君のおへそに100万ボルト』２０１６年１０月上演

中央『でこレンジャーショー』２０１７年ライフプラザ夏祭りにて上演

右上『ボンバーソウル』２０１５年１０月上演

きっかけは、さんかく広場の卒業パーティー

『ワンピースショー～レジェンド・オブ・ザ・ワールド　そして旅立ち』
２０１３年９月上演

そもそものきっかけとなったのは、放課後等デイサービスさんかくひろばの卒業パーティーで、スタッフと子どもたちが一緒に作った寸劇の上演です。その時の参加者たちが一生懸命に取り組み、子どもたちからも「次はいつやるん？」の声が上がるなど予想以上の反響があったことから、さんかくひろばの利用者とスタッフの有志、地域の方を含めての結成となりました。現在は障害の有無も年齢も様々なメンバー10人前後が役者として参加し、本格的な音響・照明や舞台装置を使用した一時間程度の公演を行うまでに成長しました。

『拳法学園』２０１４年１１月上演

『ボンバーソウル』

最新公演の報告

それな劇団でこじるしーの最新公演が、10月9日に上演された「HEY　YO　Yokai　にようかい？」でした。※3ページイラストは、最新公演当日パンフレットからの抜粋です。

少しとぼけた歌詞と

聞き覚えのあるメロディに乗った

オープニングダンスに始まり、

「立派な妖怪にあこがれる落ちこぼれの妖怪たちが、悪の大妖怪と対決する」というストーリーの中で、笑いあり、

「なぜ？」と聞くのが好きな妖怪、赤いドレスの『棺のなぜこさん』は、逆に他人から「なぜ？」と聞かれるのが大嫌い。

キャラが被るのは許せない！と不思議なパワーでみんなの体を入れ替えてしまい、大騒ぎに・・・。

戦いあり、

切ない別れあり・・・・

小さい頃に分かれた母親『花子さん』と念願の再会を果たす海外妖怪『チャッキー』。しかし悪の大妖怪『ぬらりひょん』を完全に封印するため、花子さんは死者として永遠にあの世に留まることになってしまう。

最後の分かれの時、体を失い思念体となっていた『花子さん』は『なぜこさん』の体に乗り移り、悲しむ『チャッキー』をそっと抱きしめる。

最後はみんなそろっての大団円。

カーテンコールは満場の拍手で迎えられ、大好評のなか公演は幕を閉じました。

劇団でこじるしーは来年も本公演を算面で行う予定です。またお話をより理解していただけるよう、要約筆記を依頼しスクリーンにて台詞の字幕表示も行っております。厳しい稽古と幾度もの公演経験を重ね、年々成長を続けるメンバーたちが作るここでしか見られない舞台を、是非見にいらしてください！！

劇団でこじるしーの公演情報は、公演時期にチラシの配布等で行わせていただきます。また、お問い合わせは地域交流センターさんかくひろば（072 － 734 － 6833）までどうぞ。

（賦句（ふすく）　達郎（たつろう））

研修報告

「成人発達障がい者への医療介入と社会参加について考える」

講師　：　稲垣亮祐（いながきりょうすけ）氏（さわらび診療所院長）

会場　：　高槻現代劇場

2017 年 11 月 5 日、高槻市の高槻現代劇場にて開催された上記講演会に参加しました。テーマは現在各種報道でも注目を集めている「成人発達障害者」への医療的福祉的対応に関するもので、講師は吹田のさわらび診療所院長：稲垣亮祐氏。

相談支援の現場では最近特に児童成人問わず「発達障害に関わるケース」が増えていると実感します。その一方で、一言に「発達障害」と言っても、知的障害を伴わない「広汎性発達障害」や「自閉症スペクトラム」、「ADHD（注意欠陥多動性障害）」、「学習障害」、「アスペルガー症候群」等々、その特徴や傾向に基づいて様々な「分類」がなされていますが、私自身未だ正確な理解が出来ていないのが現状です。

さらに、この発達障害という言葉自体が比較的新しいものであり（私が大学で障害福祉を学んだのはかれこれ 30 年近く前ですが、当時は「発達障害」なんて聞いたことがなかったように思います）、その理解や対処方法、特に福祉的対処支援方法はまだまだ手探り状態にあるような気がしてなりません。

というわけで、今回の研修から学んだ点、特に「自分にとって大切」だと感じた点を中心に報告させて頂きます。

1. 発達障害と知的障害と精神障害（医学モデル的分類）

・知的障害：先天的な精神機能の遅れがある。認知、理解、言語、行動等。

・精神障害：精神疾患の後遺症により生活上の課題が出てくる。後天的障害。

・発達障害：精神機能の「独自性」により、対人関係の難しさ等の困難がある。

「生活上の課題」は知的障害と重なる部分が多い。がしかし、障害分類上は精神障害になっている（知的障害を伴わないからか）。「生活上の課題」が深刻化して精神症状が表れるケースあり（2 次障害）。

２. 発達障害の特徴

・感覚（視覚 / 聴覚 / 臭覚等）、記憶、認知 / 統合、感情 / 思考 / 運動等の「独自性」。

・精神機能発達のアンバランス（得意 / 不得意、興味あるなしが顕著）。

・突出した能力が武器にも弱点にもなる。

・例えば、優れた記憶力により不快事象もずっと覚えてしまっている。忘れられない。

・自我機能（「自明性：当たり前と感じる感覚」）の障害。「当たり前」がわからない。

・本人の精神機能で苦しんでいるわけではなく、「人との接点」で苦しみが生まれている。

・「心の苦しみ」は双方向性。本人の努力以外に周囲の理解と支援が重要。

・障害の現れ方は「周囲との関係性（周囲の理解度）」でかなり異なる。軽減除去が可能。

3. 発達障害とパニック、こだわり

・物へのこだわり：溺れる時の「浮き輪」（それを保持することで気持ちが安定する）。
・それほど大切な「浮き輪」を「別人の感覚」で奪うとパニックに繋がる。
・「浮き輪」奪還を目指して自傷他傷になる。
・パニックの対象は関係が一番近い人の場合が多い（自宅では母、施設では担当職員）。
・言葉での理解が難しくパニックに繋がるケースも多い。

4. 発達障害への精神科医療介入

・発達障害は病気ではない！病気だと「いかに治すか」が課題。
・障害を生活障害 / 生活上の課題として理解する必要あり。「治す治さない」の対象外。
・発達障害による「生活上の課題」にどう対処するかが重要（生活 / 福祉モデル的思考）。
・しかしながら、現状は医学モデル / 医学的アプローチによる発達障害理解が中心。
・「生活上の課題」に対応するには生活 / 福祉モデルの対応が必要（新たな制度設計含め）。
・精神科医療介入や服薬により「苦しみ（パニック、緊張、失眠、興奮等）」を軽減除去。
・苦しみの軽減除去により「当事者主体 / 自己決定」を促進する。
・発達障害による生活上の課題が深刻化（孤立、ストレス過多等）して精神症状を来す場合があるので要注意（2 次障害誘発）。

5. 発達障害への福祉的対応

・発達障害から学び「発想を自由」にする。
・現状は「後手的対応」が中心。「先手」を考える。
・行動観察を重視し、「あなたをもっと知りたい」と関心を向ける。
・平時から「興味関心を持って」関わり、信頼関係を深める。
・「心のあり方」は双方向性。問題行動の要因は本人でなく「周囲 / 社会環境」にあるかも。

【講演を聴いての感想】

1. 福祉的支援の重要性と課題

発達障害を病気ではなく「生活上の課題」と捉えた場合、いかに本人の生活を支えるか、つまりは福祉的支援のあり方が焦眉の課題となるのではないでしょうか。しかしながら、現行の障害児者福祉の枠組みでは対応できないケースが多々あるのでは（日中施設では集団実践が主体。一方で、発達障害の特性として「集団への適応困難」「対人関係の難しさ」がある）。

発達障害の特性を考慮し、日中施設においても「個別支援を中心」にしつつ、集団への適応や人間関係の維持促進を徐々に獲得できるような取り組みがより一層広がればと願ってやみません。

2. 医療との関わり

本人の苦しみの軽減除去を図る上で医療との関わりや適切な服薬は必要不可欠。一方で、上記の通り、発達障害に伴う「生活上の課題」の軽減解決を図るためには福祉的支援の充実も欠かせない。よく言われる「福祉と医療の連携」ですが、現状では「医学的視点からの発達障害理解 / 課題提起」が中心になっているように感じます（発達障害研修についても医学者 / 精神科医によるものが多い）。

医学的アプローチももちろん重要ですが、生活支援の中心となるべき福祉関係者や福祉分野からの現状及び問題提起がまだまだ少ないような気がして成りません。支援する側もまさに「手探り状態」にあるのかもしれません。この点は自分自身にも課された課題として今後も考えていきたいと思います。その際には、「既存の障害児者福祉の枠組み」に押し込めるのではなく、「発想を自由」にして「あるべき福祉制度のあり方」を新たに提起する視点が欠かせないと感じます。

3. 周囲の理解と配慮の必要性

発達障害理解に置いても「医学モデルから生活モデルへの発想の転換」は重要。発達障害がある人を取り巻く「周囲の理解と支援 / 配慮」がさらに進めば、「生活上の課題」がかなり軽減するのではないでしょうか。障害者差別解消法で重要視されている「合理的配慮」にはスロープやエレベーター、手すり、トイレ等の「ハード面」だけではなく、「ソフト面（障害特性に見合った表現手段、役割、空間提供等）も含まれているはずです。「本人が発達障害を抱えている」のではなく、「現在の社会の在り方や価値基準、規範が本人に発達障害を背負わせている」とも言えるのでは、と今回の講演会を通じて強く感じた次第です。

最後に

発達障害について考える度に「私も発達障害では」と思うことが多々あります（特異な言動や傾向が少なくないので・・・具体的言及は控えます。周囲の皆様の理解と支援に改めて感謝）。先生の講演でも、「人は誰だって強みと弱みがある。弱みに注目すれば誰もが何らかの発達障害を抱えている。その大小の違い（社会生活に支障を及ぼすかどうかの違い）」との言葉が強く印象に残りました。確かに、難しい課題ではありますが、今後も「我が事」と捉えて、特に福祉現場からの課題提起 / 制度設計に努めていきたいと思います。

（福永（ふくなが）　英司（えいじ））

追悼

河野秀忠（かわのひでただ）さん

２０１７年９月８日に、率先して箕面の障害者運動を牽引してきた河野秀忠さんが永眠されました。７０年代に反戦・部落・沖縄問題から障害者解放運動へと突き進み、多くの人に影響を与えながら長年活動をしてきた河野さん。当法人が任意団体だった頃の運営委員会代表を務めていただいた事もあり、当法人とは非常に関わりの深い人物でした。その河野さんへの追悼文を掲載させていただきます。

「河野　秀忠さんを偲んで」

私が障害をもった人達と初めて接したのは今から約２４年前の事です。
当時の私は会社勤めをしており、会社の方針に不満を持ちながらも色々と意見や提案をしても変わらない会社に嫌気を感じ退職した頃の事です。

次の仕事は、当時のテレビ番組の影響を受け「障害をもった人が外出する事を手助けできる仕事がしたい」と考えていました。そんな折、地域新聞に豊能障害者労働センターの活動が紹介されており、とてもユニークな活動に感銘を受けて職員採用の打診をしました。

採用を考えるとの返事をいただいたものの給与が低く、結局は私からお断りする事となりました。その後に「他の事業所で、もう少し高い給与が出せるので会ってみませんか？」との連絡がありました。その事業所は障害をもった人達が働くパン屋で、そこの代表が河野さんでした。

東淀川にあるリボン社の近くで食事をしながら、障害をもった人達と接した事のない私が務まるのか？と思いつつ仕事内容や給与について説明を受けました。
その時に、河野さんが「梶原さん。生まれつき目の見えない障害をもった人にガラスの事を説明できるか？」と質問された事や「将来は､障害をもった人達が高級車を乗り回し､障害をもった人達の暴走族がいるような社会になればいいですね」等々、今の生活の実情や未来について色々と話が盛り上がった事を憶えています。
その結果、パンを焼いた事のない私、障害をもった人達と接した事のない私の不安は横に置いて、河野さんと言う人のおもしろさと型破りな考えに共感を受けてパン屋に勤める事を決心し

ました。それからは、箕面の障害者運動に引き込まれ今となっています。
「河野さん！河野さんと知り合った頃の時代が一番楽しかったですよ。また、リボン社近くの中華店でご馳走になった焼き飯定食、おいしかったですよ。私の人生は焼き飯定食で変わりましたよ」

（梶原　文雄）

「河野秀忠さん追悼」

河野さん、あなたの功績やかなりクセのある？人柄を記している文章は多いことでしょう。某新聞にも「在野の哲学者」とありましたね。愛情を込めて「ホントに～？」と思って読みましたよ。お若くてまだまだ元気で全国を飛び回っていた頃のあなたをタイムリーには知らない世代ですが、その頃の経験や物事の考え方などを居酒屋えんだいやにて毎夜直接お話を聞けた最後の世代なのかなと思っています。「哲学者」とは到底言えない俗な話も多かった…内緒ですけど、半分以上…ね。当時は何も考えずにただ楽しい時間でしたが、今思うとなんと貴重な時間だったのでしょう。戻れないからこそ人は成長するのでしょうか。振り返ればあの時間を通じて「物事の本質を捉える大切さ」を教えてもらったと思っています。
敵も多く、ややこしい面もあったけれど、心根が優しい人でした。社会で何かを変えていこうとした時に、怒りや知恵やがむしゃらも大事だけれど、最後は人間を「愛する」ことこそが、その原動力になるのだと気付いておられたのでは…。
時は無情で、何事もなかったかのように明日がまた来るけれど…あなたのことを心に刻んで生きている人間がいますよ。
最愛のつれ合いさんと永遠の時間を穏やかにお過ごし下さい。

（丸橋　舜太郎）

「河野秀忠さんを偲ぶ」

河野さんとはキャベツ畑という、推進協第一事務所すぐそばの豊能障害者労働センター食堂で、朝昼兼用のご飯のあとで出逢ったり、えんだいやという、河野さんに誘われ、嫌とは言えない優しい皆さんが出資して出来た市民酒場でご一緒することが多く、とても多彩な興味や関心、好奇心の旺盛な方でした。

箕面市行政の方々との対市交渉、隣市や箕面市の市会議員選挙で共に応援する方の応援活動、「そよ風のように街に出よう」の雑誌の発送作業、地方自治政策を学ぶ会、みのお市民人権フォーラム実行委員、関西障害者定期刊行物協会総会など、いろんな機会でご一緒し、たくさんの方々を繋ぐ役割を担ってこられました。花園大学での教鞭もとられ、一度お誘いを受けて出かけた際、河野さんが学生さんに向けておっしゃられた言葉がとても印象的でした。「たくさんの人が助けを求めているけれど、所詮人は一人の人のお手伝いしか出来ないことを忘れてはいけない。目の前にいる人のことを大切にしよう」と。

いつも多方面の方々との交流が盛んな河野さんでしたが、お連れ合いさんの闘病中だったこともあり、淋しげな眼でしみじみと発しておられた言葉は重みが残りました。今頃、お連れ合いさんと仲良く五島列島の海を眺めながら、私達の活動が途絶えることのないようにしっかりやれよ！とつぶやかれていることでしょう。

河野さんと出逢えてたくさんのことを教わりました。河野さん、ありがとうございました。

（安東（あんどう）　由紀子（ゆきこ））

「もう一度一緒に飲みたいな」

河野秀忠さんが２０１７年９月８日お亡くなりになりました。

河野さんは推進協が法人になる前の代表であり、箕面に障害者運動の風を吹かせた人なのです。そして「そよ風のように街に出よう」という障害者問題総合誌の編集長として、全国を駆け巡り、様々な運動を繰り広げた人でした。

河野さんとの出会いは３５年前。推進協が出来るはるか前、河野さんと一緒に障害者の働く場を作ろうと、石けん屋さんをやり、カレンダー屋さんをやり、パン屋さんをやったりと色々商売をやっていました。どれをとっても強烈な思い出ばかりなのですが、中でも印象に残っているのはパン屋さんをやる少し前「パン屋さんを始めようと思うが、職人に予定していた人が辞めたからお前パンを焼け」河野さんのその一言が私の人生を変えたかも知れません。とにかく無茶苦茶な人。だからこそ箕面の障害者運動を牽引出来たのかも知れません。

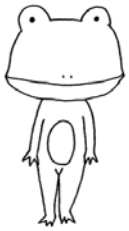
河野さんのような人はもう二度と私の前に現れないでしょう。

けど、もう一度一緒に飲みたいな。

（武藤（むとう）　芳和（よしかず））

カエルのうた

其の 18 ～ 3 度の入院



今までに三度入院したことがある。一度目は 30 才の時、仕事中腹痛になり病院で調べると盲腸だという。手術をしたのだが、麻酔をして手術部分はカーテンのようなもので隠れていたので、いつのまに切ったのか分からずじまいで終了した。麻酔のある時代に生まれて本当に良かった。

二度目は脳出血で倒れた時。三ヶ月間の入院と、結果車イス生活になったので、一番記憶に残っている。家に帰って食事をしていた時、立ち上がろうとすると体の力が抜け立ち上がれず倒れてしまった。訳も分からず横に置いていた携帯で助けを呼んだ。幸い同僚が駆けつけてくれ、救急車で病院へ。手術が必要だったらしいが、家族の承諾がないと命に係わる手術は出来ない決まりらしく、一応の検査をし、家族待ちの状態がしばらく続いた。その後家族と連絡がつき病院にやって来たのだが、結局手術はされなかった。手術されなかったことが原因なのかどうかは分からないが、私は左半身に麻痺が残り、車イス生活の始まりとなった。それまでに障害者と呼ばれる人との付き合いが多かったせいか、脳出血の影響でポーっとしていたからかは分からないが、車イス生活になることには不便を感じることはあっても、ショックを受けることは無かった。それよりもその時の看護婦 (今は男女共、看護師と呼ぶらしい) の態度の悪さ、病院食の不味さ、風呂が週に 3 回しか入れないことが強烈な印象として残っている。それと寝ることとリハビリがほとんどの生活は、退屈でどうしようもない。テレビを見ることは出来たが 21 時消灯なので、これからという時間に消さなければいけない。これを見たいというような番組は無かったが、見ていた方が気が紛れて時間の経つのが早く感じる。
土日はリハビリも無くなってしまう。別にリハビリが楽しい訳ではないが、することが何もないよりはましだ。あの入院の三ヶ月間は人生におけるワースト 3 に余裕で数えられると思う。

三度目の入院は脳出血の時と同じ病院。寝ている時に咳が出始め、一晩中寝ることができなかった。相当熱もあり、翌日救急車で病院へ。三日間は熱が下がらず、かなり重症のような感じだった。ＭＲＩで二回も検査し、他にも色んな検査をしたが、結局原因は分からずじまい。それが四日目ぐらいから熱が下がり始め、六日目ぐらいにはほとんど自分としての平常に戻ったような感じだった。結局十日間の入院だったが、あの不自由な十日間は何だったんだ。

（武藤（むとう）　芳和（よしかず））

パンのみみ

その 32　～　バス物語り（前編）～

グサッ グサッ、胸にヒヤっとする痛みが走る。そのバスの運転士さんが無線で発する言葉「車イスが乗ったから、交代遅れるかもしらん！」静かな車内で何度も繰り返される同じフレーズに、体中が真っ赤に燃え盛るような気分になった。他の乗客はどんな気持ちで聞いているんだろう。バス運行側がこんな表現をしていたら、あぁ、迷惑な客だなと思う人もいるなあ。

箕面市内の全てのバスにノンステップないしワンステップバスが配備され、どの便にも車イスで乗車できることをつい先日知った。「やったー！いつでもバスに乗れる！」羽がはえたよう。世界の景色が塗りかわる衝撃だ。ライフラインが皆と同じように整備されるということは、一人一人の日常を確実に変えて、その日常が全体に点在し、街そのものを変えていくうねりになる。

わたしたちが何十年遅れでやっと手にした自由。好きな時に、好きなところへ行けるし、行ったらいい。気の向くままに。そんなささいで大切な営みを手に入れるために、障害のある人たちの歴史はあきらめず小さな戦いを続けてきた。やっと、本当にやっとハードが整えられたのに、この血がにじんだ積み重ねを何にも知らない、一人の運転士さんが簡単に踏みにじっていく。彼の中では車イスの乗客はお客様ではなくて、迷惑な人でしかない。多くのバス乗務員が共有している考えだ。

負けたくない。後ろにはたくさんの後輩たちがいる、こんなことで挫けない。そう言い聞かしてはみても、やはりショックを隠せない。

降りしな、極めつけのように「何時ごろ帰ります？事前に連絡してもらえます？」と、不快な顔でこちらを見てくる。一瞬、脳裏に年下の女の子の顔が浮かぶ。彼女が住んでいるところはバスしか交通手段がない。事前連絡と時刻に縛られ、どんなに話が盛り上がっていても、大事なシチュエーションでも、急いで飛び出して帰っていく。不思議の国のアリスにでてくる白うさぎのように。彼女はこんな経験を散々してきたんだなあ。「どのバスでも乗れるようになったんだから、連絡なくても自由に乗って良いよ」と話しても、彼女の答えは「怖くてようしません！」だった。

2人のやり切れなさがこの時重なり、悔しさと空しさで張り裂けそうになった。そしてパチンッと弾けるような音が聞こえる。 「帰る時間はわかりません！連絡は強制と聞いてませんけど!!」思ってもみない低い声が出る。不愉快さが全面に出ていたせいか、彼は少しひるんだ。けれどその後も「絶対ではないけど…できたら…助かる…」とモゴモゴ続けている。急いでいることを猛アピールしておいて、ここではしぶとく粘るのだから Oh No! まったく腑におちない。空返事をしてその場を後にした。

バス業界の重たい扉は開いたばかり、利用するたび膿はうにょうにょ出てくるんだろうな。トホホ…。でもバスで確実に動ける世界は広がる。次のアクションが必要なのかもしれない。

（今井（いまい）　雅子（まさこ））

編集後記　～こんなメンバーであんじょうやりました～

・とうとうインフルエンザが流行りはじめる時期がきてしまいました。今年は予防接種のワクチンが不足しているらしく、どこに電話をかけても全然予約がとれず、さぁ困った。「これはヤバそうだ」と消毒用アルコールジェルを光の速さで準備。ワクチンの追加供給があるまでマスクと念入りなうがい手洗いでしのぐしかない！と気合いを入れております。急激に暑くなったり寒くなったりピーキーな一年でしたが､残りあと少し｡今年も最後まで頑張ります。(びーどろ)

･今年の初めに「今まで経験してない事を色々挑戦してみる」という自分目標を立てていたが、何をしただろうと振り返ってみた。「初めてスマホを持った」「初めてクレジットカードを作った」「初めてボウリングのマイボールを作った」「初めて麻雀をした」など。ちっちゃな出来事ばかりやけど、自分にとってはまあまあの冒険でした (^o^;) さて、来年はもうちょっと大きなことに挑戦してみよっかなぁ。(たぬき)

・このところ就労継続Ａ型事業所の一斉閉所に伴う「利用者の大量解雇」が相次いでいます。安易な利益追求を目論んで、安定した作業／工賃や専門知識と経験を備えた職員等を事前に十分確保してこなかった事業所の多くが閉鎖に追い込まれています。解雇された人たちのことを思うと言葉が見つかりません。不十分な制度のしわ寄せはいつも末端の利用者に降りかかってきます。何度同じことを繰り返すのでしょうか？怒りを禁じえません。(職員Ｆ)

・この編集後記を書いているのはまだ 11 月だというのに、真冬のように寒いです。洗濯物を干していても気持ちのいい暖かさにならず乾きも遅いので､正直言って洗濯するモチベーションが上がりません。それに外に出て干していると手先が冷たくなります。ついつい先送りにして、洗濯物が溜まっていきますね。寒いです。モチベーションが上がりません。溜まっていきます。どうしましょう・・・。(職員ＴＦ)

・先日、日帰りで親睦旅行へ行きました。今年一番冷え込んだ日に、ただでさえ寒い伊賀上野へ行ったのに、上着を着ない人が一人いて、風邪をひかないかとヒヤヒヤしました。お気に入りの重ね着が見えなくなるから上着を着たくなかったらしいけど、寒がりの私にはとてもできないことです。こだわりの力はすごいんだな～と実感した出来事でした。(職員〇)

当法人の応援をお願いします！【会員募集】

当法人「箕面市障害者の生活と労働推進協議会」（略して推進協）は「障害者市民の権利および自立生活の促進」を理念に掲げ、活動しています。**当法人を応援してくださる会員を募集しています！**
現在、当法人では主に下記の活動を行っています。

ヘルパー派遣事業

地域で自立生活を営む障害のある方々に向けたヘルパー派遣を行っています。「居宅介護」や「重度訪問介護」などの在宅支援、障害の特性にあわせた「同行援護」「移動支援」などのガイド支援を行っています。

グループホーム事業

障害者市民の自立生活の一つとしてグループホームを市内で運営し、地域生活を支援しています。入居者の自主性を大切にし、その人の個性をよく見てできることは自分でしてもらい、できないことは少しずつできるように世話人が支援をしています。

地域交流センター事業

放課後、長期休暇中の活動保障として障害がある子どもや地域周辺の子どもたち、および市民が交流する場「さんかくひろば」を運営しています。また、保護者等に対する相談も行っています。

相談支援事業

障害者市民の自立生活への援助・アドバイス・情報提供を目的として、きめ細かい相談業務を行います。また、より多くの市民と共に将来の施策のあり方について検討を行います。

その他の幅広い活動

当法人独自の事業として移動困難者の支援を行う送迎サービス、当広報誌『ファーストラン！』の刊行、ヘルパー養成の研修やアートサークルの運営なども行っています。

今後も障害のある方々にとって暮らしやすい社会づくりにむけた活動を継続していきます。より一層のご支援・ご協力をいただきますようお願い申しあげます。つきましては、**一人でも多くの皆さまに、当法人理念および活動方針の賛同者であり応援者でもある「会員」になっていただき、当法人の活動を応援していただければと願っています。**

■ご入会について■

入会希望の方はご一報ください。入会申込書を送付いたします。会員の種別は下記の３種類となっています。

団体会員　年会費　　：１口　10,000 円
個人正会員　年会費　　：１口　3,000 円
個人賛助会員　年会費　：１口　1,000 円

※団体会員・個人正会員は年に１回開催される総会に参加でき、議決権があります。個人賛助会員に議決権はありません。
また、団体会員と個人正会員の議決権は１つで、口数には比例しません。
（口数が増えても議決権は増えません）。

当法人公式サイトからもお申し込みいただけます！下記のページにアクセスしていただき、画面の案内にそって必要事項を入力のうえ、お申し込みください。
http://www.suisinkyo.com/members

■お問い合わせ先■

072 － 723 － 3342（会員担当：木下（きのした））

みなさん、推進協の応援団、会員になってください！お願いします！

当法人について

当法人は箕面市内で様々な活動を行っています。
ご依頼・ご相談は電話・FAX・Email・公式サイトよりお問い合わせのうえ、各事務所へお越しください。

編集／特定非営利活動法人　箕面市障害者の生活と労働推進協議会
〒562 - 0001　大阪府箕面市箕面４丁目８番30号　電話：072 - 723 - 3342　FAX：072 - 723 - 6506
Email：JDW07270@nifty.com　郵便振替：00990 - 4 - 116066　公式ウェブサイト：http://www.suisinkyo.com